

大鹿HeatBeat

第 22 回 ~ 大鹿の人々 ~

紙谷 正 さん (85)



ドクロの帽子がお似合いの紙谷さん。どくろはヨーロッパの美術史に中世の時代から登場しますが、それが象徴する事として「メント・モリ」(汝、死を忘ることなかれ)がある。紙谷さんはそれを知ってか知らずか…お行き会するとそんな言葉を投げかけられているように感じ、心を改たにするのである。しかし考えてみればお百姓は命を巡らせることで日々の糧を頂いている。命の誕生から死の

瞬間(収穫)看取るまでが生業なのである。紙谷さんはじめ多くの里山人の生活はまさに「メント・モリ」を体現しているといってもいいのではないだろうか。



右馬允のホームページをリニューアルしました!! まだ未開設のものもありますが、順に公開していきます。季節の旬のお料理や今注目の大鹿村での動きを随時アップしていきますのでご覧いただければと思います。ソムリエ允(まこと)によるワインと大鹿の秋の味覚を楽しむタペなど今後、企画して参ります。おみしりおきを



右馬允の自慢の庭の栗の木の実が落ち始めました。樹齢およそ80年ほどと思われる山栗の木が2本敷地内には植えられています。先代が植樹したのもなか、自然に根付いたものなのかはわかりませんが、小粒で、味がいいのが特徴です。季節のお茶受け、人気ナンバーワンの「茶きんしほり」シーズンがもうすぐそこまで来ています。

大鹿スナッチ

2011
長月①
前志満くみ
第26号

『仇も恨みも是まで是まで』。強烈な存在感を放った俳優 原田芳雄さんの遺作となった「大鹿村騒動記」のクライマックスのセリフである。原田さんが演じたくて仕方のなかった大鹿村のオリジナル演目「六千両」。原田さんは映画の中で村役者としてその願いを叶え熱演されている。先日再び映画館に足を運んだ。クライマックスでこの六千両のストーリーと現実と重なった瞬間、同時に観客から拍手が上がった。お亡くなりになった今となっては原田さんご自身の人生観もこのセリフに集約されているように感じるのには私だけではあるまい。

以下の写真は今年5月4日の映画の完成披露試写会后、ロケ地R152沿いにあります「ディアイーター」前でのもの。インタビューをさせて頂いたのでこの紙面では原田さんの大鹿歌舞伎への想いをそのまま掲載させていただきます



Q: 2010年の秋2週間という短い時間での撮影、ご苦労はありましたか? 現場の印象を教えてください。

A: 撮影期間は2週間あったんですが、監督、ライターの荒井さんなんかとシナリオ…いわゆる下ごしらえみたいなことを結構長い時間とったものですから、料理と割合合っていて、下ごしらえ ちゃんとば一つとやとくと2、3分でできてしまいます。逆に言うとスピード、現場のあのスピード感みたいなものが、やってある意味気持ちよかったことがあります。ただ2週間撮影をしてみて、終わったあとなんだか夢見ている様な状態でしたね。帰ってから1週間、毎晩歌舞伎のセリフ出てくるし、やったことのない役の歌舞伎なんかやったりして…まー印象としてあるのは、なんか夢みたいなの2週間だったねというのがあるね。

Q: 2008年の全国放送のドラマ「おしゃしゃのシャン」で原田さんは村役者(舞台には立てなかった)としてご出演されていますが、今回は劇中で実際に舞台に立たれる役としてご出演されてみて、ご感想は?

A: そうですね…その次の年(2009)の5月3日に大鹿歌舞伎の春の公演をさせて頂いた時に、本歌舞伎にない非常に荒々しい原始的なエネルギーみたいなのがそこにあって、大鹿歌舞伎は、見る側と、演じる側が同時に育ってきたというのがわかった。それとこの大鹿村というのが、外部から入ってくるものを排外しない、みんな受け入れていくという気質みたいなものがあって、それは現在の村の人たちにも感じられた。そういうものを映画の中で、歌舞伎というものをモチーフとして何か表現できないかなというのを監督と相談しました。ただ歌舞伎というシーンは、先ほども舞台あいさつをした通り、芝居を何十年やってきたとはいえ、まったくの素人ですからね。で、しかも大鹿歌舞伎の形ってのは300年のなかの、影清は影清のちゃんとした形がありますもんで、それはできるだけ、やらせてもらおうと思ったんですが、付け焼刃じゃむりですね。おまけに、なんとか取り戻そうと思って、素人が力んでやろうというもんですから、道柴をば一つと振り払う時に左肩を脱臼しましてね。もうそのあとの形がとれなくなって、即興でやったみたいな事態になりましたが、ま、なんとかその…映画の嘘で上手くとり持つようになりましたけど。やってみて、ますます大鹿歌舞伎ってものの…ほんとにこの歴史の中でガ—って積み重なってきたものの凄さってのは、昨日(5月3日の春の公演)なんかみえますます思いましたね。だから他の演目も全部見たいです。

7月19日原田芳雄さんは71歳でお亡くなりになりました。大鹿村を舞台に自ら企画し、遺作となった「大鹿村騒動記」の全国ロードショーから4日目ことです。続・大鹿村騒動記2作、3作と期待されていただけに悲しみが広がりました。原田さんは大鹿の人々によって守り継がれてきた大鹿歌舞伎の歴史に敬意を示し、寄り添って下さいました。これほど大鹿村を全国に発信してくださった方は他にはいないのではないのでしょうか。その仕事ぶりは最後まで徹底して役者魂をみせて頂いたように思います。